

鶴見国際交流ラウンジ紹介

私は、鶴見国際交流ラウンジ（以下、鶴見ラウンジ）で一年半働いた。最初ラウンジを知ったのは、鶴見区にある横浜市国際学生会館（以下、学生会館）に住んでいたところ。当時、学生会館の窓口スタッフから、「ラウンジで働いてみませんか？」と声をかけられた。なぜ学生会館のスタッフとラウンジがつながっているのか。それは、この2つの施設とも「YOKKE」が運営しているからだ。「YOKKE」とは、横浜市国際交流協会（以下、英文名「YOKOHAMA ASSOCIATION FOR INTERNATIONAL COMMUNICATIONS AND EXCHANGES」）の中からYOKOHAMAの「YOK」とEXCHANGESの「E」を合成してつけた愛称だ。横浜市と世界の「きずな」を強くしようという気持ちで、「ヨーク」と呼んでいる。他の国際ラウンジと日本語学習支援センターもあるが、今回は鶴見ラウンジと学生会館に焦点を当てて紹介したいと思う。

私が学生会館に入居したのは2022年の4月であった。これは神奈川大学を通じて学生会館に申請したのがきっかけだ。学生会館は主に留学生の受け入れ場所として運営されている。ここでは、毎月留学生同士が交流し、各国の文化を紹介する活動がよく行われている。また、日本語の勉強を手助けするためのサポート事業や、卒業生の就職活動を支援する事業もある。さらに、学生会館を通じて横浜市内の小中学校や社会団体などにつながる機会も豊富にある。私自身も出前授業で小学校に行ったり、社会団体の要望に応じて自

分の故郷の紹介をしたこともあった。そんな充実した生活の中で、ラウンジで働く機会をもらった。

ラウンジは多文化共生というテーマで運営されているが、私の仕事は主に在住外国人を支援することである。具体的には三つの業務がある。一つ目は外国人向けの日本語教室案内である。もし外国の方がラウンジに来て日本語を勉強したいと相談した場合、私はラウンジで活動している日本語団体を紹介し、彼らを日本語の先生に繋ぎ、適切な時間帯を案内する。もし彼らが全く日本語を話せない

場合、私は中国語と英語に限って通訳をする。他のスタッフはスペイン語、ポルトガル語、ベトナム語、ネパール語などで対応する。二つ目は、研修室の予約を管理することである。日本語教室は外部の団体によって運営されているため、時間帯の調整することも重要だ。最後は横浜市内の小中学校に在学する外国人の子どもたちを支援することだ。「YOKKE」のデータベースには多くの語学ボランティアが登録されている

ため、彼らをマッチングして、適したボランティアを派遣する。区役所や保育園へ派遣する場合もよくある。最後に私の感想をひと言述べたい。皆さんご存知の通り、日本社会は少子化と高齢化が進行している一方で、若い外国人がますます増えている。日本人と外国人の衝突か共生か、これは質問ではなく、選択である。この中でラウンジのような組織は重要な役割を果たしていると思っている。

人文学研究科 欧米言語文化専攻 博士前期1年 曹黄個



ラウンジのイベント準備中